平成２０年１０月の解説（週間天気予報）

【１０月の天候状況】

上旬は、北日本では天気が短い周期で変化しましたが、東・西日本では晴れの日が多くなりました。中旬はほぼ全国的に晴れの日が多くなりました。下旬の前半は北日本から西日本にかけて天気は周期的に変わりましたが、後半には北日本を中心に冬型の気圧配置となり北・東日本の日本海側では曇りや雨の日が続きました。一方南西諸島では晴れの日が多くなりました。

月を通しての日照時間は南西諸島では平年より多くなりましたが、その他の地方ではほぼ平年並となりました。降水量は北日本と西日本の日本海側では平年より少なくなりました。気温は全国的に平年より高くなりました。

【１０月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は全国平均では例年(注)より 4 ポイント高い 75%でした。例年に比べて北日本から中国地方では 2 から 8%高くなりましが、九州南部地方は 7%、沖縄地方は 4%低くなりました。最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は東北地方から九州北部地方にかけて例年より 0.2℃から 0.7℃小さくなり、全国平均も 0.3℃小さい 1.9℃でした。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は関東甲信地方から九州地方にかけて例年より 0.2℃から 0.6℃小さくなり、全国平均も例年より 0.3℃小さい 1.8℃でした。

（注）例年値は気象庁ＨＰ（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【１０月の週間天気予報から】

今年の１０月は低気圧や前線がほぼ周期的に日本海や本州の南岸を通過しました。天気が周期的に変わる時には、低気圧や前線の移動の予想に遅れや進みがでることがあり、週間天気予報で雨の降る日を的確に予想するには難しい判断を伴うことがあります。

１０月２３日から２５日にかけての地上天気図を図１に示します。日本付近は、２３日は日本海と西日本に低気圧と前線が進み、２４日には北日本と東日本を前線を伴った低気圧が通過しました。２５日にはそれらの低気圧が千島近海に去り、北海道を除き移動性高気圧に覆われました。

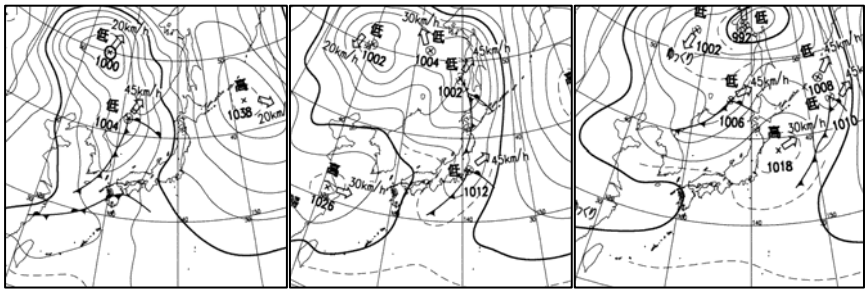

図１　2008 年 10 月 23 日 21 時（左）、24 日 21 時（中）、25 日 21 時（右）の地上天気図

関東甲信地方の２３日から２５日の日降水量の実況を図２に示します。２３日と２４日は

雨となり、日降水量が１００ミリを超えた所がありましたが、２５日は雨が上がり、降水はありませんでした。

１０月１９日の週間天気予報で使用した予想図を図３に示します。予想図では、２３日は高気圧の後面となり、２４日は日本海を前線が南下し２５日には前線が日本付近を通過するため、雨となることを示していました。しかし、１０月に入ってから、予想よりも低気圧や前線の動きが早まる傾向があったため、予想よりも早く天気が崩れると考え、東京地方の２３日は曇り、２４日と２５日は曇り一時雨と予報しました。実際には、検討した予報以上に低気圧や前線の動きが早く、２３日は雨が降ったため見逃しとなり、２４日は予報どおり雨が降り適中し、２５日は雨が降らなかったため空振りとなりました。

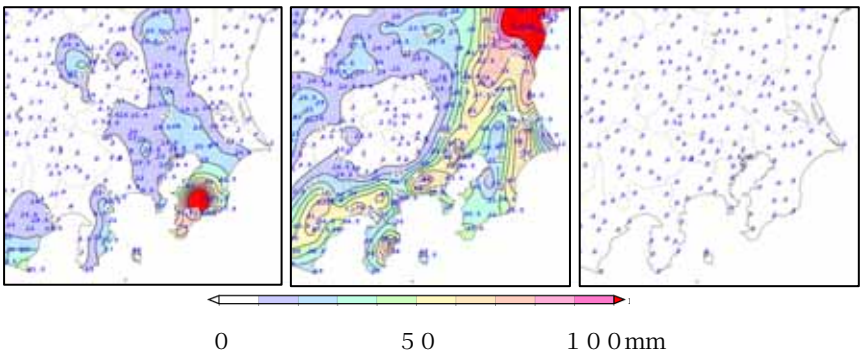

図２ 2008 年 10 月 23 日（左）、24 日（中）、25 日（右）のアメダス日降水量

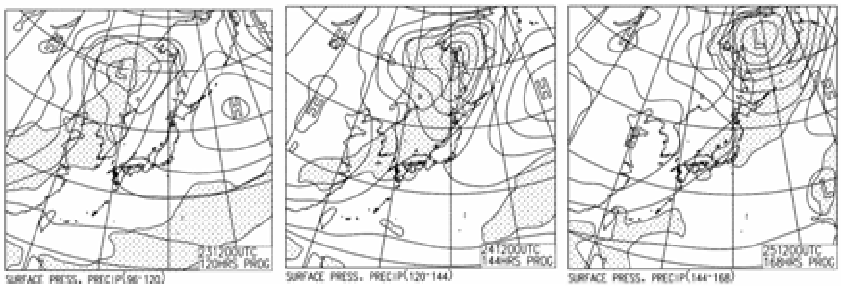

図３ 2008 年 10 月 19 日の予報で使用した 10 月 23 日 21 時（左）、24 日 21 時(中)、25 日 21 時（右）の地上予想図（水　　玉模様は降水が予想される範囲を表す）

移動性高気圧と低気圧、前線が交互に東進し、天気が周期的に変わる気圧配置の時には、雨の降る日が予報した日の前後にずれ込むことがあります。予報期間の後半では雨の降るタイミングがずれる可能性があることも考慮しつつ、できるだけ最新の予報を利用していただくようお願いいたします。

【１２月の週間天気予報の利用にあたって】

日本列島は南北に長いので、同じ 12 月といっても地方によって天候が大きく違います。札幌では雪の日が多く、寒さも厳しく平均気温も氷点下となる日がほとんどです。太平洋側に位置する東京では晴れの日が多くなりますが、日平均気温は 5 度から１０度程度です。一方、那覇では平均気温が１０度を下回ることはほとんどなく、時には 20 度を上回る日もあります。気温ばかりでなく天気も大きく異なりますので、レジャーやビジネスなどで旅行をする際には、現地の天候に合った履物や服装などの準備のために週間天気予報を十分に活用してください。